

イベント情報

二条城では、年間を通じて様々なイベントを開催し、世界遺産・二条城をより身近に感じていただける取組を行っています。
普段と異なる二条城を是非ご堪能ください。

◆主なスケジュール

3月下旬～4月中旬	二条城ライトアップ
4月9日	観桜茶会
5月3日～5日	市民煎茶の会
8月(予定)	お城まつり
10月下旬～11月初旬	市民大茶会
1月2日～4日	正月庭園公開

*日程は都合により変更又は中止になる場合があります。



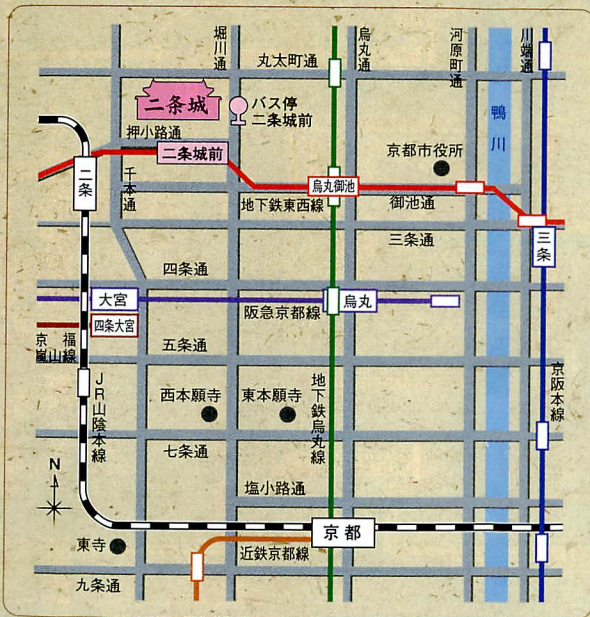
二条城ライトアップ

開城時間

- 入城時間
午前8時45分から午後4時まで(閉城午後5時)
- 二の丸御殿観覧時間
午前9時から午後4時まで

休城日

- 12月26日から1月4日まで
- 7月、8月、12月及び1月の毎週火曜日(休日の場合は翌日)



世界遺産・二条城一口城主募金 受付中
二条城の本格修理に御支援をお願いします

元離宮二条城事務所

〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541
TEL:(075)841-0096 FAX:(075)802-6181

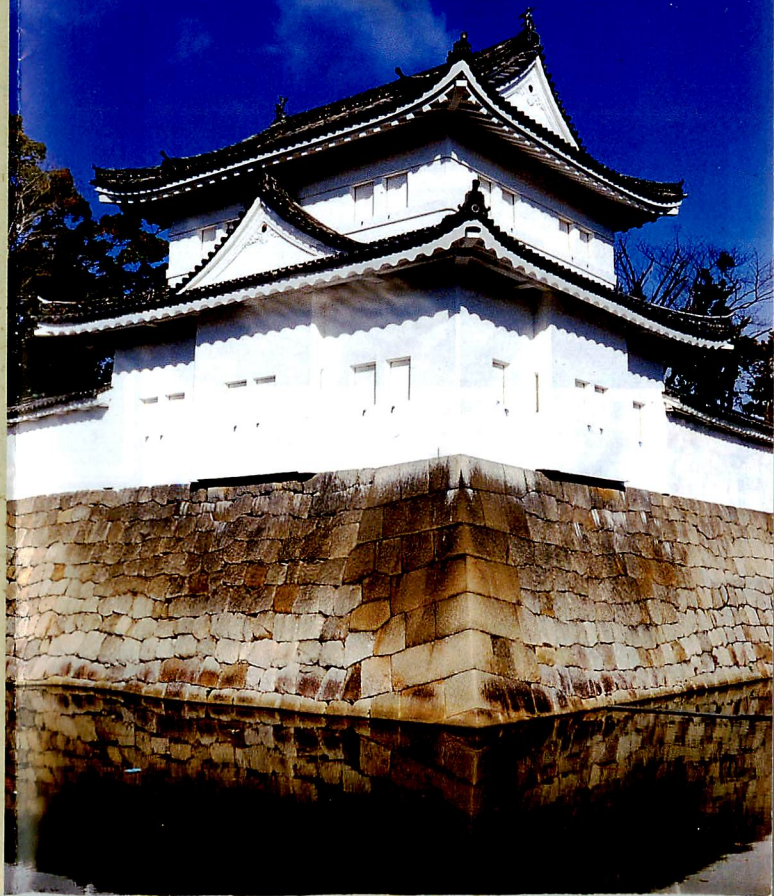
URL: <http://www.city.kyoto.jp/bunshi/nijojo/>

平成21年11月発行
発行:京都市文化市民局 元離宮二条城事務所 京都市印刷物 第214412号

世界遺産登録

元離宮

二条城



■車いすご利用の方へ
二条城では車いすの貸出し(無料)を行っています。外回り用は事務所様入口にて、二の丸御殿内用は御殿入口にて受付しています。また、車いす対応の洗面所は、緑の園前、清流園休所横、西橋休所横の3ヶ所にあります。

■ご観覧について
二の丸御殿内は障壁画保護のため撮影禁止となっています。二の丸御殿での靴の履き間違ひにご注意ください。(靴袋をご希望の方は、スタッフまでお申し出ください。)

・文化財等の維持管理や各種事業のため、観覧区域を制限することがあります。ご了承ください。



- 二の丸御殿(6棟).....国宝(建造物)
- 東大手門等(22棟).....重要文化財(建造物)
- 二の丸御殿障壁画(1016面).....重要文化財(美術工芸)
- 二の丸庭園.....特別名勝

城内の文化財

- 総面積: 275,000平方メートル
- 建築面積: 7,300平方メートル(文化財建造物)
- 全 域: 世界遺産及び史跡

施設の規模



二条城は、1603年(慶長8年)徳川幕府初代将軍家康が、京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所として造営し、三代将軍家光が、後水尾天皇の行幸にあわせて、1626年(寛永3年)に改修したもので、絵画・彫刻・建築に、桃山から江戸への時代の移り変わりを見ることが出来ます。

1867年(慶応3年)十五代将軍慶喜の退位により、二条城は朝廷のものとなり、1884年(明治17年)離宮となり、その後、1939年(昭和14年)に京都市に下賜され、1994年(平成6年)にはユネスコの世界遺産に登録されました。

1601(慶長6年)	徳川家康が西日本の諸大名に二条城の築城を課す。
1603(慶長8年)	二条城完成(現在の二の丸部分)、家康初めて入城。
1611(慶長16年)	家康が豊臣秀頼と会見。
1614・15	城内で大坂冬の陣・夏の陣の軍議を開き当城より出陣。
1624(寛永元年)	三代将軍家光、城の拡張・殿舎の整備に着手。
1626(寛永3年)	本丸・二の丸・天守完成。現在の規模となる。
9月、後水尾天皇二条城行幸(5日間)。	
1634(寛永11年)	家光、三十万人と称する大軍を率いて入城。
1750(寛延3年)	8月、雷火により五層の天守焼失。
1788(天明8年)	1月、市中の大火により本丸殿舎などが焼失。
1863(文久3年)	家茂入城(1634年三代将軍家光が入城して以来)。
1866(慶応2年)	城内において慶喜十五代目の将軍職を継ぐ。
1867(慶応3年)	10月、二の丸御殿大広間に在京諸藩の重臣があつめ、慶喜が大政奉還の意思を発表した。
1868(明治元年)	1月、城内に太政官代を置く(現在の内閣にあたる)。
1871(明治4年)	二の丸御殿内に府を置く(のち一時陸軍省になる)。
1884(明治17年)	7月、二条離宮となる。
1893(明治26年)	京都御所北東部にあった桂宮御殿を本丸に移築し、本丸御殿とする。翌年完了。本丸庭園(芝生)造成。
1915(大正4年)	大正天皇即位の大典が行われ大聖堂を造営(現清流園の位置)。
1939(昭和14年)	宮内省が二条離宮を京都市に下賜。
1940(昭和15年)	2月11日恩賜元離宮二条城として一般公開をはじめる。
1952(昭和27年)	文化財保護法の制定により、二の丸御殿6棟が国宝に、本丸御殿隅櫓など22棟の建物が重要文化財に指定される。
1953(昭和28年)	二の丸庭園が特別名勝に指定される。
1965(昭和40年)	清流園造成。
1982(昭和57年)	二の丸御殿の障壁画が重要文化財に指定される。
1994(平成6年)	ユネスコの世界遺産に登録される。
2005(平成17年)	築城400年記念 展示・収蔵館 開館。

歴史

西暦

二条城年表



本丸

本丸は、1626年(寛永3年)三代将軍家光の命により増築されたものです。もとは、五層の天守閣が高くそびえ壮麗を誇っていましたが、1750年(寛延3年)に雷火により焼失。また1788年(天明8年)には、大火による類焼で本丸内の殿舎をもなくしました。

現在の建物は、京都御苑内にあった旧桂宮御殿を1893年～94年(明治26年～27年)にわたり、ここに移し建てられたものです。この建物は、1847年(弘化4年)頃に建てられたもので、宮御殿の遺構としては完全な形で残っている貴重なものであり、重要文化財に指定されています。(内部非公開)

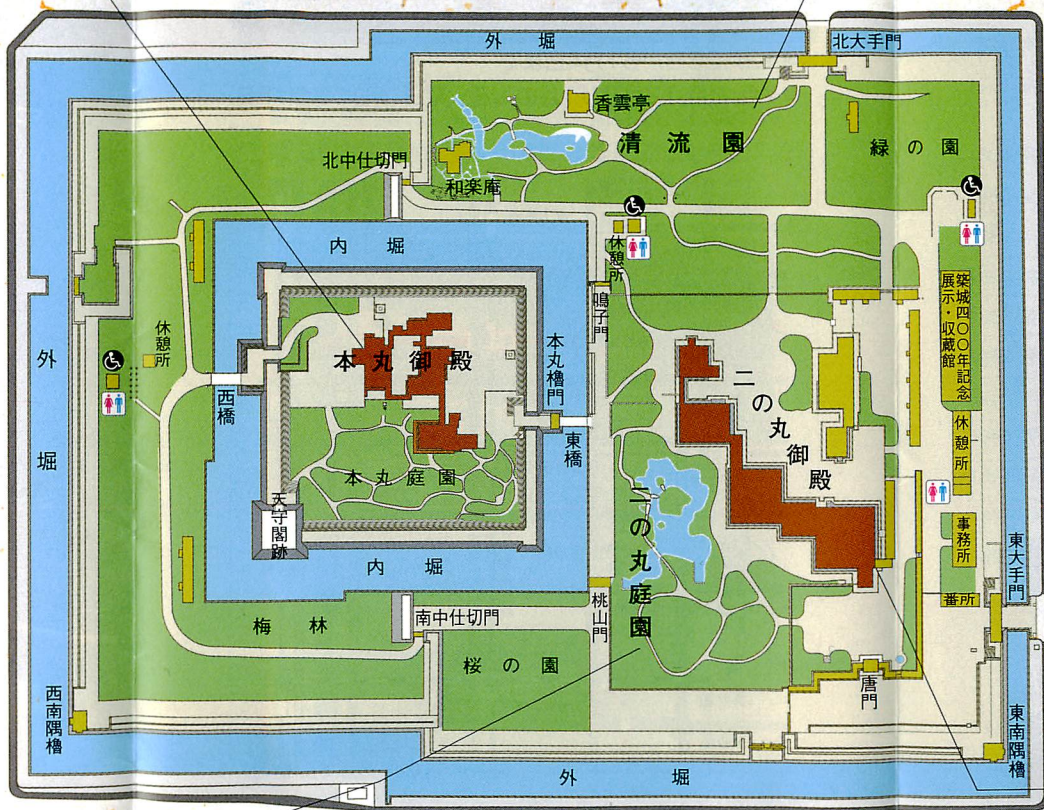
本丸御殿南側にある庭園は、明治時代に作庭されたもので、天守閣跡は、この庭園の西南隅にあります。



本丸



清流園



トイレ 多目的トイレ

清流園

清流園は、江戸初期の豪商、角倉了以の屋敷から、建物の一部と庭石約800個を譲り受け、これをもとに二条城にふさわしく、雄大・明朗・風雅をモチーフに全国から集めた銘石300個と新たに茶室を加え1965年(昭和40年)に完成しました。

庭は、池泉回遊式の和風庭園部分と、芝生を主体にした洋風庭園部分からなり、面積約16,500平方メートル。園内には、香雲亭、茶室和楽庵があり、市民大茶会をはじめ二条城を訪れる国賓公賓の接遇場所にも利用されています。



二の丸御殿

二の丸庭園(特別名勝)

二の丸庭園は、古来からの造庭術にしたがい、池の中央に蓬莱島、その左右に鶴亀の島を配した書院造庭園で、小堀遠州の作と伝えられています。庭は、1626年(寛永3年)、池の南側に後水尾天皇の行幸御殿が建てられた際に改造されたといわれており、主に大広間、黒書院、行幸御殿の三方向から見られるよう工夫されています。色彩に富んだ大小さまざまな石組にあらわれた力強さは、豪壮な城郭建築とよく調和しています。



二の丸庭園

二の丸御殿(国宝)

武家風書院造の代表的な御殿建築で、遠侍(とおざむらい)、式台(しきだい)、大広間、蘇鉄の間、黒書院、白書院の6棟が東南から西北にかけ雁行形に並んでいます。建物面積は3,300平方メートル、部屋数は33、畳は800畳余りあります。各部屋の障壁画は狩野派の手によるもので、部屋の目的に応じて描かれています。また欄間の彫刻、飾金具、長押(ながし)に打たれた花梨斗形(はなのしがた)の釘隠などは、金飾あざやかに豪華を極めています。また、御殿東北には、台所・御清所(おきよどころ)があり、いずれも重要文化財に指定されています。

国宝 二の丸御殿【案内図】

御殿内は撮影禁止

①遠侍 柳の間

車寄を入った正面の部屋は、障壁画により「柳の間」と呼ばれ、目付役が控え、来殿者の受付をした所とされています。

②遠侍 一の間～三の間

3部屋に分かれており、昇殿した大名の控室です。虎の間ともいわれ、障壁画は狩野門下の筆によります。

③式台 式台の間

昇殿した大名が老中職と挨拶を交わした所です。将軍への献上品は、この部屋でとりつかれました。

④大広間 三の間

部屋の正面上にある欄間の彫刻は、厚さ35センチの檜の一枚板を両面から透かし彫りにしたものです。また、大広間と黒書院の部屋廻りの柱の上にある金具は花梨斗形の釘隠といい、銅の地金に金を鍍金したものです。

⑤大広間 一の間・二の間

将軍が諸大名らに対面した部屋です。特に将軍が座る一の間は、最も豪華に造られており、帳台構・違棚・床の間・付書院を備え、天井は、四方が丸く折上がった「折上格天井」の中が、もう一段折上がった「二重折上格天井」になっています。また、障壁画は、狩野探幽の作といわれています。

⑥黒書院

将軍と親藩及び譜代大名が内輪で対面をした所です。大広間と同じ書院造ですが、少し小さくなっています。

⑦白書院

将軍の居間と寝室です。二の丸御殿の中では最も規模が小さく、障壁画は居間にふさわしい水墨画になっています。

⑧大広間 四の間

この部屋の障壁画「松鷹図」には、桃山時代の様式を取り入れた、巨大な松と勇壮な鷹が描かれています。

白書院

黒書院

牡丹の間

蘇鉄の間

大広間

式台

遠侍



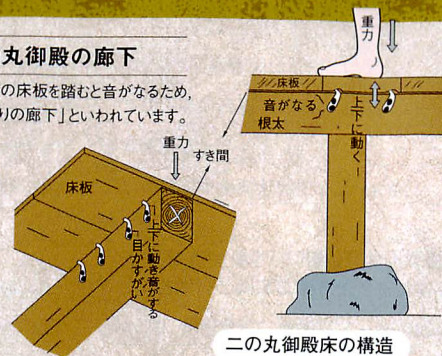
大広間一の間
将軍が諸大名と対面する際には、一の間に将軍が、二の間に大名が座りました。大名から見た将軍に威光が感じられるように、建築や障壁画には様々な工夫が施されています。



大広間四の間 松鷹図

二の丸御殿の廊下

二の丸御殿の床板を踏むと音が出るため、「うぐいす張りの廊下」といわれています。



二の丸御殿床の構造

二の丸御殿障壁画模写事業 ～文化財保存に向けた努力～

二の丸御殿障壁画は、17世紀の城郭建築とともに奇跡的に残された作品で、明治期のもも含めると総数は3000点を超え、そのうちの1016画は1982年(昭和57年)に国の重要文化財に指定されました。

二条城では、この貴重な障壁画を恒久的に保存するために、1972年(昭和47年)から二の丸御殿の障壁画の模写を行っています。

専門的な技術・知識を持った人の手により、当時と同じようにできるだけ天然の材料を使い、伝統的な技術の保存と継承に努めています。

完成した模写作品は、順次原画とはめ替えを行っています。
※現在大広間、黒書院、式台及び白書院の一部の障壁画は模写障壁画とはめ替えられています。

築城400年記念 展示・収蔵館

～二の丸御殿障壁画と間近で触れ合える場所～

この建物は、模写とはめ替えた障壁画(原画)を収蔵し展示する施設で、ここでは今まで廊下からしか見られなかった二の丸御殿障壁画を間近でご覧いただけます。

また御殿内の空間を再現できるよう工夫しており、二の丸御殿障壁画の特徴である巨大な画面構成と、荘厳な空間をお楽しみいただけます。

■開館時期

不定期

■開館時間

9:00～16:45

(受付終了 16:30)

■入館料

100円

(別途入城料が必要)



築城400年記念 展示・収蔵館